

6章 アセアン大学ネットワーク（AUN）による域内教育協力フレームワーク

1. 成立過程・略史・目的・理念

アセアン大学ネットワーク（AUN:ASEAN University Network）は、1995年にアセアン10カ国の高等教育担当大臣により合意・署名され設立された、アセアン諸国を代表する大学をメンバー大学（以下、メンバー大学）とする大学間のネットワークである。設立当初は11のメンバー大学によるネットワークであったが、その後1999年に6大学、2005年に4大学を追加し現在メンバー大学は21校となっている。アセアン諸国のアカデミック・ネットワークとして、学生と教員による各種共同事業を通じ相互理解を促進することを目的として設立されており、①学生と教員の交流、②共同研究、③情報共有、④アセアン研究の促進、を4つの柱とし活動を実施している。その他、日本、EU、中国、韓国、といった域外パートナー（Dialogue Partner）からの技術・資金援助による共同事業も複数実施されている。また、豪州、米国との協力についても模索が始まっている。

2. 参加国・参加機関

アセアン加盟10カ国の21のメンバー大学で形成されるネットワークである。各国から1-3大学の参画となっている。参加大学は表1のとおり。

表1. 参加国・大学

国	大学
ブルネイ	ブルネイダルサラム大学
カンボジア	プノンペン王立大学
インドネシア	バンドン工科大学
	ガジャマダ大学
	インドネシア大学
ラオス	ラオス国立大学
マレーシア	マレーシア科学大学
	マラヤ大学

	マレーシア国民大学
ミャンマー	ヤンゴン大学
	経済大学
フィリピン	デ・ラ・サール大学
	フィリピン大学
	アテネオデマニラ大学
シンガポール	ナンヤン工科大学
	シンガポール国立大学
タイ	チュラロンコーン大学
	マヒドン大学
	ブラパ大学
ベトナム	ベトナム国家大学ハノイ
	ベトナム国家大学ホーチミン

(出所) AUN(2005, p7)

3. 組織体制

(1) 組織

AUN は、①政策決定機関である理事会 (Board of Trustees)、②活動を実施するメンバー大学、及び③計画案策定・調整・モニタリング機能を担う事務局、の3つのレベルの組織で構成され、理事会は各国政府により任命される10名のメンバー大学代表者、アセアン事務局及びAUN事務局の代表者で構成され、年に2回会議を開催している(2009年以降は年1回に)。事務局はバンコクのチュラロンコーン大学内に置かれ、事務局長は理事会議長(=タイ高等教育委員会長官)の推薦を受け理事会により任命される。AUNの政策決定にあたり理事会では各国の代表が等しく投票権を持つ構成となっているが、理事会の議長及びアセアン大学ネットワーク事務局長は、設立以来、それぞれ代々タイ教育省高等教育委員会長官とタイの大学関係者が選出されてきており、また、事務局自体もタイ政府による資金的支援を受けて設立・運営されている。

また、AUNはその傘下に、①工学分野、②ビジネス・経済分野、③知的財産分野、におけるサブネットワーク(それぞれ、AUN/SEED-Net、AGBEP、AUNIP Network)と、①

質保証、②情報ネットワーキングにかかるタスクフォースを形成している。

(2) 人員

事務局は、事務局長、副事務局長、オフィスマネージャー及びプログラムオフィサー(5名)、経理担当者、秘書(2名)の合計 11 名で構成される。

(3) 予算規模

AUN による活動は域内での協力活動と域外パートナーとの共同事業に分かれるが、前者については、一部アセアン基金などの外部資金による実施分を除いて、基本的に活動に参加するメンバー大学による「コストシェア」によって実施されている。そのため予算額を正確に把握することが難しいこともあり公表されていない。たとえば、交換留学プログラムにおいては、受け入れ大学側が学費を負担（免除）する一方、送り出し大学側が渡航費を負担するなどし、また、各種会議も参加大学による自己負担での参加により行われている。他方、域外パートナーとの活動にかかる予算規模については、表 3 中に記載のとおりである。

4. 現在の活動全体の概略と将来展望

現在実施されている主な活動を域内での協力活動と域外パートナーとの共同事業に分けて整理するとそれぞれ表 2、3 のとおりとなる。

表 2. アセアン域内での主な活動

プログラム	概略と実績
アセアン研究	マラヤ大学をホスト大学とするアセアン研究にかかる修士プログラムの立ち上げ。2006 年 10 月から開始。
教育フォーラムと青年スピーチコンテスト	1998 年に第 1 回。これまでに 10 回開催。
アセアン青年文化フォーラム	2003 年に第 1 回。これまでに 5 回開催。
交換留学プログラム	1999 年に開始。これまでに学部生 50 名が 1 学期から 1 年

	間の交換留学プログラムに参加。
教員の交流プログラム	2000年に開始。これまでに30名の教員が参加。
共同研究	アセアン基金による支援のもと、情報技術、経済分野の研究を実施。
情報ネットワーキング	インターネット上での情報共有の促進と関連する研修の実施。AUNIPネットワークの立ち上げ。
質保証	ガイドラインの作成、試験的評価活動の実施(5.に詳述)。
アセアン・ビジネス経済大学院プログラムネットワーク(AGBEP)	メンバー大学のビジネス・経済分野の大学院プログラム間の協力の促進を目的とし、教員・学生の交流、共同研究を実施。
知的財産ネットワーク(AUNIP)	知的財産分野での情報共有。

(出所) AUN(2005)、AUN(2008)、AUN第24回理事会資料を元に作成。

表3. 域外パートナーとの主な活動

プログラム	パートナー	概略と実績
アセアン・中国学術協力・交流プログラム	中国	2回の学長会議とラウンドテーブル会議を開催。予算は約150,000ドル。
アセアン・ヨーロッパ大学ネットワークプログラム(AUNP)	EU	共同研究の実施(20件)。2回の学長会議と3回のラウンドテーブル会議を開催。単位互換制度構築、質保証活動などに対する技術協力の実施。2000-2006年の予算は7,767,500ユーロ。
アセアン・インド学術協力	インド	ワークショップ、会議の開催(各1件)。
アセアン工学系高等教育ネットワーク(AUN/SEED-Net)	日本	次章に詳述。
アセアン・韓国学術交流プログラム	韓国	会議開催(2件)、研究支援(44件)。1999-2005年の予算は690,490ドル。
アセアン・韓国国際大学生	韓国	Daejeon大学での1年間の交換留学。2007年までに

交換プログラム		78名の受け入れ。2001-2006年の予算は1,064,827ドル。
アセアン・ポスドク研究支援プログラム	韓国	共同研究支援（30件）。2000-2002年の予算は500,000ドル。

（出所）AUN(2005)、AUN（2008）、AUN第24回理事会資料を元に作成。

なお、AUNは将来の展望として、フェーズを区切り段階を踏みながらAUNを発展的に「ASEAN University」に転換していくことを謳っている。同大学の体制や活動内容はいまだ構想段階にあり詳細は未定であるが、①アセアンが直面する課題を解決する「フォーラム」を提供することを目的とし、②50%を対面式の授業で、残りの50%を情報通信技術を活用した遠隔授業で行う大学院レベルの教育・研究活動の実施をその柱とし、③メンバー大学間の単位互換制度を導入する、ことなどが構想されている。オファーされるプログラムについても未確定であるが、International relations、Comparative public administration、Cultural studies and languages of ASEAN、Environmental studies and other cross boundary issues、など、アセアン理解を促進しアセアンの抱える問題解決に資する分野・テーマが対象で、既存の大学と競合しないことに配慮している。

5. 特に高等教育交流及び高等教育調和化・国際的質保証に関する近年の動向・活動とその成果

（1）高等教育交流

上述のとおり、各プログラムの規模は必ずしも大きくないものの、域内及び域外の高等教育機関との間での教員・学生の交流事業が複数展開されている。

（2）高等教育調和化・国際的質保証

AUNは、「AUN-Quality Assurance（以下、AUN-QA）」として、1998年から質保証にかかる活動を重点的に実施してきている。「地域レベルの質保証はアセアンの全ての高等教育機関の質の向上と維持を助けるもの」との認識に基づき、各メンバー大学の経験と優れた実践例（Good Practices）を共有することで「域内メンバー大学における内部質保証システムの構築と域内高等教育の調和化」を目的とした活動が行われている。具体的には、各大学の学術担当の副学長や質保証担当部門の部門長など質保証に関する責任者が1

名ずつ質保証担当官（CQO: Chief Quality Officer）として任命され、彼らが6ヶ月ごとに集まりワークショップを開催し議論を重ねてきている。その中で、①質保証システム、②教育・学習、③研究、④サービス、⑤倫理、⑥人的資源開発、の6つのカテゴリー毎に各メンバー大学の経験と優れた実践例（Good Practices）を共有するとともに、指標およびガイドラインを策定し、2004年にはこれらを取りまとめ「質保証ガイドライン（ASEAN University Network Quality Assurance Guidelines）」を、さらに、2006年にこれを補足するものとして、「ガイドライン実践のためのマニュアル（Manual for the Implementation of the Guidelines）」を策定している。

その後このガイドラインとマニュアルを使用し、試験的に各大学の学部・プログラムを評価する活動が始まっている。2007年5月にブラパ大学の工学部を対象に実施した評価を皮切りに6ヶ月ごとに1校を対象に行うことが決まっている。さらにAUNは今後の展望として、各大学の内部質保証システムがガイドラインの設定する基準を満たしていると判断される場合には、その証左として「AUN-QA Label」を提供しこれを認証することを検討している。また、AUN-QAの基準による質保証を将来的には地域的な認証スキーム（accreditation scheme）へと発展させ、最終的には国際的な認証活動と連動させることを目指すとしている。

（3） 「アジア版エラスムス計画」（アジア域内高等教育交流）へのインプリケーション

AUNの特徴は、少数のエリート大学によるネットワークである点にある。「アジア版エラスムス計画」を考えると、大きく分けると、本家の計画のように最初から緩やかで大きな枠組みを用意し、広く多数の大学の参加・交流を促進する方法と、ある程度参加メンバーを絞り込んで「閉じた」ネットワークとして実施する方法が考えられる。AUNは後者であり、そこにはメリットとデメリットがあるが、メリットは、少数のネットワークとすることでそのマネジメントが容易になり、またメンバー大学間で強固な繋がりを形成できる点である。また、各国のトップ大学のみをメンバーとすることで参加者・活動の質を一定の水準に維持できる点もメリットとして挙げられる。デメリットは当然ながら交流の範囲と数が限られることである。メリットとデメリットのいずれが上回るかは、多分に実施する事業の目的・内容・性質によるが、域内および各国内での格差が非常に大きい本地域においては、たとえば、AUNが現在実施している質保証活動などはエリート大学の集まりとして実施するほうが効果的・効率的な活動であると言える。つまり、教育・研究水準が

あまりにも多様な多数の大学を対象にしたガイドラインを作ることは困難であり、また作られたガイドラインも実効性を持たない。一定の水準を既に有する大学が各国を代表してガイドライン作りに参画しなすは自身の質保証体制を整えた上で、トップ大学の責務としてそれぞれが国内の他大学への支援を展開するという手順を踏むほうが効率的でかつ確実な成果を挙げる方策であると言える。

従って、事業の目的・内容・性質によっては、「アジア版エラスムス計画」においても少なくとも当初期間においては、一定程度「閉じた」ネットワークとして事業を展開する部分があってもよいと考えられる。

(4) 「アジア版エラスムス計画」との将来における協力可能性

AUN は、アセアン地域における大学間ネットワークの中で最も確立されたネットワークの1つであると言える。アセアンの下部組織であることから安定した組織基盤を持っており、また各国の中核大学が参画したネットワークであることから各国政府との距離も近くその国内・域内に対する影響力は大きい。また、その性格から、域外の大学・大学間ネットワークがアセアン地域でパートナーを探す際に最有力の候補となることから、既に日本、中国、韓国といった東アジア域内各国とのネットワーク形成も進んでいる。これらの点を考慮すると、「アジア版エラスムス計画」を推進するにあたっては、アセアン地域における重要なパートナーとして AUN をとらえる必要があると思われる。

【参考文献・資料】

梅宮直樹 (2008) 「東南アジア地域における地域的な高等教育の質の保証—その特徴と原動力—」『比較教育学研究』第 37 号、90-111 頁

ASEAN University Network (2004) *ASEAN University Network Quality Assurance Guidelines*, Bangkok

ASEAN University Network (2005) , *ASEAN University Network: Partnership and Progress, 1995-2005*, Bangkok

ASEAN University Network (2006) , *ASEAN University Network Quality Assurance Manual for the Implementation of the Guidelines*, Bangkok

ASEAN University Network (2008) , *ASEAN University Network: The Special 12th
Anniversary Report*, Bangkok

AUN ホームページ (<http://www.aun-sec.org/>)

AUN 第 22 回理事会資料 (2007 年 11 月 1・2 日開催)

AUN 第 24 回理事会資料 (2009 年 1 月 30・31 日開催)